

年間第五主日

2010. 2. 7

高円寺教会 7 : 30 ミサ

ルカ 5・1-11

今の神学生の傾向は分かりませんが、私が神学校にいたころは、私も含めて、殆どの方が社会で何年か働いてから神学校に入ってきました。よく先輩の神父様や信徒の皆さんと話しをしますと、「今の時代、神父を目指す人も、多少の社会経験をしてから神学校に行った方がいい」とよく言われます。確かに司祭や神学生にとっても、社会経験を持っているというのは、社会で生きている信徒の皆さんと共に生きて行く上でも、また社会に向かって福音を述べ伝えて行く上でも、プラスになることだと思います。私自身も、九年間社会で働いていた経験というのは、神学生時代も大いに役立ちましたし、司祭になってからも役立っています。しかし一方で、社会に出ることによって得た知識・経験というものは、ややもすれば自分の思考を凝り固まらせてしまう危険性も孕んでいるように思います。「俺はこういうことをしてきた」「俺はこういうことができる」。まあそれが、他の人ができないことを補ってくれる、そういった感じで表れてくれば、神学校の共同生活にも役に立ちますし、良い影響を及ぼすのですが、大抵の場合は「お前らにはできないだろう」という尊大な気持ちとして表れてきたりするのです。神学校のように、入学する年齢も、入学前の環境も違う人々が集まる場所では、一人ひとりが謙虚に、同じ目標に向かって歩いていくという姿勢がなければ、このような尊大で自己中心的な気持ちが、何かの拍子にふいっと鎌首をもたげてくる、そのようなこともあるのです。

そしてこのようなことは、ひょっとしたら教会の中にも起こり得ることかも知れません。「私はあの人よりこの教会に長くいる」「私はあの人よりたくさんの委員会に携わってきた」「私はあの人よりも聖書について知っている」「私はあの人よりも典礼に詳しい」このような心を持ってしまった場合、その人の培った知識・経験というものは、相手を押さえつけてしまうだけでなく、自分の中に広がるはずの世界をも自ら限定してしまうことになるのではないのでしょうか。自分の知識・経験にばかり頼る人は、結果的にその枠内から出ることができない、出てこない人と言えるでしょう。私たちはイエス様を通して与えられる、自分の外に広がる世界を意識しなければなりません。

さて、今日の福音でイエス様は、夜通し漁をして一匹の魚もとれなかったペトロに、「沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をしなさい」と言われます。それは漁のプロであるペトロへの挑戦状とも言えるものです。こうイエス様に言われたとき

のペトロの心中はいかなるものだったでしょう。そして一緒に一晩中漁をした漁師たちの心中はどうだったでしょう。もし私たちがペトロをはじめとする漁師の立場だったら、やっぱり「コノヤロー！」と思ってしまうかもしれません。現にペトロは「私たちは夜通し苦労しましたが、何もとれませんでした」と、イエス様の言葉に対して不平ともとれる言葉を発しています。しかし問題はその後です。ペトロはこう言葉を続けます。「しかし、お言葉ですから、網を降ろしてみましよう」。この日本語の訳ですとよく分からないのですが、この部分、聖書の原文であるギリシア語を直訳すると、「しかし、あなたの言葉に依り頼んで、私は網を降ろします」となるそうです。つまりペトロの舟には、恐らくペトロ以外にも数人の漁師が乗り込んでいたはずですが、「私たちは網を降ろします」ではなく「私は網を降ろします」と言っているということは、他の漁師はイエス様のことばに耳を貸さなかったということになります。恐らく漁師のプロとして、大工の倅が言う言葉なんぞ、鼻にも掛けなかったのでしょう。が、ペトロだけは違っていました。漁師のプロが、漁など全くしたことのない大工の倅の言い付けを聞く、しかも漁をするには全然適していない時間に。常識的に考えれば、答えは「No」のはずです。それにもかかわらずペトロは「イエス様のことばに依り頼んで」網を降ろしました。その結果どうなったかは先程皆さんが聞いたとおりです。

ときにイエス様のことばは、私たちの知識・経験、常識をも越えて、私たちに迫ってきます。そのようなイエス様のことばに、私たちはしばしば驚き、迷い、時には反発すら覚えることもあります。しかしイエス様に呼びかけられたとき、自分の知識・経験・常識の枠を取り去り、主のことばに依り頼んで一步を踏み出すとき、そこには自分がまだ経験したことのない新しい世界と、実行したことに対する大きな実りが待ちかまえているのです。ペトロは網が破れそうなほどの魚がかかったのを見て、「主よ、私から離れてください。私は罪深い者なのです」と叫びました。それは、たくさんの魚がかかったのは自分の知識・経験によるのではなく、主のことばに依り頼んだから、ということに認め、また今まで、自らの知識・経験ばかりに頼って、神に依り頼んでいなかった自分の罪深さを認めたからでした。そんなペトロにイエス様は、ペトロに与えられる大きな実りを約束されました。「人間をとる」、それは「人間を生かすために集める」という意味です。自らの小ささ、罪深さを認めることは、神様からの使命を与えられる、つまり「召命」の第一歩になるのです。神様はそのような態度の中にこそ、ご自分の力を注ぎ込まれます。ペトロに「全てを捨てて」イエス様に従う決心ができたように。

「全てを捨てる」それは正しく、自分の知識・経験に頼ることを止め、イエス様のみことばに依り頼む姿勢に他なりません。私たちもイエス様のみことばに依

り頼みましょう。イエス様の呼びかけに、「あなたのおことばですから、やってみます」と常に答えたいものです。

カトリック高円寺教会
助任司祭 林 正人